



## デジタル時代における放送制度の在り方

放送は、取材や編集に裏打ちされた信頼性の高い情報発信、国民の知る権利の充足、社会の基本情報の共有、多様な価値観に対する相互理解の促進といった社会基盤としての役割を果たしながら、健全な民主主義の発展に貢献しています。

近年、情報空間がインターネットを含めて放送以外にも広がる中で、インターネット空間では、人々の関心や注目の獲得ばかりが経済的な価値を持つアテンションエコノミーや偽・誤情報などの問題が顕在化しており、このようなデジタル時代においてこそ、放送の役割に対する期待が増えています。

総務省では、デジタル時代における放送の将来像や放送制度の在り方について、中長期的な視点から検討するため、2021年11月から有識者による検討会（デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会）を開催し、その検討結果等を踏まえ、所要の制度整備に取り組んでいます。

例えば、国民・視聴者の多くがインターネットを主な情報入手手段として利用しつつあるなど、放送を巡る視聴環境が急速に変化している中で、放送番組がNHKと民間放送事業者の二元体制の下で国民・視聴者に提供される環境を整えることが重要です。そこで、2022年9月からは、NHKのインターネット配信の在り方等について検討を行い、その検討結果等を踏まえ、2024年5月に、インターネットを通じて放送番組等の配信を行う業務をNHKの必須業務とすることなどを内容とする放送法の改正を行いました。これにより、NHKの放送番組をテレビなどの受信設備を設置しない者に対しても継続的かつ安定的に提供することができるようになります。

このように総務省では、時代の変化を踏まえて必要な放送制度を不断に検討しています。



デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会  
公共放送ワーキンググループ（第13回）に参加する松本大臣



G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合

## 生成AIを巡る国際的なルールメイキング

### ○生成AIの発展と課題

生成AIの急速な進化は、社会に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。AIによる更なる経済成長や社会課題の解決が期待される一方で、個人情報保護、偽・誤情報による社会の不安定化など、様々な観点から課題が提起されています。AIはインターネットを通じて世界中のどこでも利用可能であることから、これらの課題は、国境を超えて影響を及ぼすものです。したがって、協調的なアプローチによる国際的な枠組みの構築が求められています。その一環として、2023年日本議長国下のG7において「広島AIプロセス」が立ち上げられ、G7で協力してルールの策定に取り組みました。

### ○初の国際的枠組み

広島AIプロセスは、2023年5月のG7広島サミットの結果を受け、生成AIに関する国際的なルールの検討を行うために立ち上げられました。日本は2023年のG7議長国としてこの広島AIプロセスの議論を主導し、同年12月には「広島AIプロセス包括的政策枠組み」及び「広島AIプロセスを前進させるための作業計画」をとりまとめました。この中には生成AI等の開発者が安全、安心で信頼できるAIを実現する上で遵守すべき行動を定めた国際行動規範などが盛り込まれています。

そして、現在、作業計画に基づき、広島AIプロセスをG7外の国や地域に広めるべく、専用ウェブサイト<sup>※</sup>の立ち上げや、広島AIプロセスの精神に賛同する国・地域の自主的な枠組みである「広島プロセス・フレンドグループ」を立ち上げるなど、アウトリーチの取組を精力的に進めています。

### ○安全、安心で信頼できるAIの実現に向けて

広島AIプロセス以外にも、G20、OECDや国連など、国際社会ではAIに関する議論が進んでいます。生成AI技術は登場してから日が浅く、望ましいAIガバナンスの実現に向けた国際的な取組は始まったばかりです。日本は広島AIプロセスの推進だけでなく、この経験を活かし、安全、安心で信頼できるAIの実現に向け国際的な議論を主導することが期待されます。



広島AIプロセス作業部会に参加する事務方

※ 広島AI プロセスウェブサイト：  
<https://www.soumu.go.jp/hiroshimaaiprocess/>